

1. 前回までは女子学生100名の、松本・大倉氏によるBBT型分類と、飯塚・吉田氏による分類とを比較検討し、前者によるBBT型別、ABO式血液型別にそれぞれ周期日数、回数、持続日数、随伴症状、月経周期日数の変動、BBT型の反復性、無排卵周期、黄体機能不全周期について検討し、100名のうち40名について結婚後の妊孕性を報告したが、今回は松本氏の基礎体温高温相点数評価法により結婚後の妊孕性を検討した。

2. 第7報の妊孕性良好群と不良群について、松本氏の基礎体温高温相点数評価法を適用し妊孕性を比較検討した。

3. (1)、妊孕性良好群は不良群に比較して、在学中の1年間の基礎体温高温相平均点数が高い。(2)、両群の高温相平均点数を(イ)既往症、(ロ)結婚年齢、(ハ)体型、(ニ)ABO式血液型、(ホ)初潮年齢、(ヘ)月経周期、(ト)月経持続日数、(チ)BBT型などの各条件との関係において検討すると、(イ)の「無」のもの、(ロ)の若いものは高温相平均点数が高い。(ハ)の「るいそう型」は両群とも点数が高いが、「肥満型」は良好群が高い。(ニ)はO型が高く次いでA型が高いが両型とも良好群が高い。(ホ)は遅速にかかわらず良好群が高い。(ヘ)は両群とも頻発周期が極めて低く、各周期とも良好群が高い。(ト)は正常の場合良好群が高い。(チ)の頻度については両群ともI型が高く、次いでII型、III型の順であり、最頻BBT型においてもI型は高い。